

コード No. 11092

**Anti-Human
Tau (Phosphorylated) (C5) Mouse IgG MoAb**

容量 : 100 µg

-
- はじめに : タウタンパク質は、神経軸索内に発現している分子量5万～7万の微小管結合タンパク質です。アルツハイマー病などにおいては、異常にリン酸化されたタウタンパク質が神経細胞内で PHF (paired helical filaments)を形成し、蓄積して神経原線維変化を生じることが知られています。
本抗体は、タウタンパク質のアミノ酸部位 386-406 (TDHGAEIVYKSPVVSG DTSPR)中のリン酸化された部分と反応します。正常ヒトタウタンパク質の C 末端ペプチド 396-441 とは反応しません (文献 1)。
- 免疫抗原 : アルツハイマー病患者脳から得られた PHF (文献 1)
- 起源 : マウス×マウス ハイブリドーマ (培養上清)
(PAI × BALB/c マウス脾臓細胞)
- クローン名 : C5
- サブクラス : IgG₁
- 精製方法 : Protein A 精製
- 包装形態 : 1 % BSA, 0.05 % NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥
- 再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加 (この時濃度は 100 µg/mL となります)
- 保存方法及び安定性 : 2～8°C 保存 5 年間安定
溶解後 -20°C 保存 2 年間安定
- 使用目的及び使用方法 : 免疫組織染色 5 µg/mL にて使用可能
ホルマリン固定、パラフィン包埋切片の場合ギ酸処理*によって染色性が著しく向上します。
*ギ酸処理方法: 脱パラフィン後ギ酸に 5 分間浸漬した後、流水洗浄
- ウエスタン・ブロッティング 5 µg/mL にて使用可能
- 特異性 : マウス、ラットに交差します。
非リン酸化 Tau タンパク質は認識しません。
- 文献 : 1. Hasegawa M, Watanabe A, Takio K, Suzuki M, Arai T, Titani K, Ihara Y. Characterization of two distinct monoclonal antibodies to paired helical filaments: further evidence for fetal-type phosphorylation of the tau in paired helical filaments. J Neurochem. 1993 Jun;60(6):2068-77.